

飯綱町小玉こだまから信濃町おちかげの落影集落に至る約4キロ（山道の部分は2.5キロ）の北国街道が、江戸時代の面影を残しながら現存しています。

大部分が未舗装のままの土の道です。小玉から落影までの標高差は170メートルほどで、この間に小玉坂、赤坂、金坂という三つの坂があり、小玉坂が一番長く急な坂になります。こんなに傾斜が急では国道には適さないと、今から78年前の昭和7年に西に大きく迂回うかいした付け替え道路がつくられました。このため小玉・落影間の旧街道は、江戸時代の面影をとどめたまま今に伝えています。

小玉坂からの眺望はすばらしい。かつて参勤交代で江戸に向くとき、加賀藩や高田藩などの一行は、この坂からパッと開けた視界の様子を見て、牟礼宿むれじゆくが近いことを知りホッとした場所でもあったことでしょう。山の中はスギやカラマツの木立が鬱蒼うっそうとしていて、夏でも涼しく快適で、小学校児童の遠足コースとしても利用されています。近年の街道ブームもあって、この道を歩く人も多くなり、舗装していない街道として人気も高くなっています（P.94の特別編にも出ています）。

小玉坂を登りきった上の平らには、茶屋や一里塚の跡があり、赤坂・金坂をこえると、明治天皇北陸ご巡幸の際の御野立所の跡もあります。落影の集落が見える近くまでくると、街道脇わきの草むらの中に「水準点」を示す石柱があり、昭和初期まで